

結婚のかたち 1

読者から「障がい者の方の結婚の例はありますか」との問い合わせがあり、今号よりさまざまな結婚例を掲載していこうと思います。

これは、私が見させていただいた「想像を超えた主にある結婚」の証しです。神が二人の男女を導き一つの夫婦として結んでくださることを通して、私たちは「神が共におられる」「神様は全知全能のお方だ」ということを改めて教えられます。

今回ご紹介するのは、北海道に住むカズオさん(仮)とマミさん(仮)のお話です。

二人が出会ったきっかけは、クリスマス専門の結婚相談所での紹介でした。当時、カズオさんは53歳、マミさんは42歳。カズオさんは、生涯一人でいること、そして一人で信仰生活を保つことに不安を感じたこと、マミさんは、身近な同い年の女性の結婚が続いたことが、婚活を始めたきっかけでした。しかし、結婚を祈るにあたりそれぞれに不安や悩みがありました。カズオさんは、生まれつきの視覚障害者です。さらに離婚歴がありました。同居はしていないものの、二人の子どももいます。以前の結婚時には教会から離れていました。また、二人の妹も離婚を経験しています。「結婚」そのものに対するイメージが決して良いとは言えませんでした。さらに母親は施設に入っていました。一方、マミさんは自分の家族に障害者がいること、自分自身にも家族にも金銭的余裕がなかったこと、北海道とい

う土地柄、出会いが少なく、遠方の人を紹介されるたびに婚活そのものに負担を感じることもありました。婚活を始めてからカズオさんと出会うまでに、すでに4年が経っていました。「本当に結婚できるのだろうか。私を愛してくれる人がいるのだろうか。もし地元を離れたら、やっていけるのだろうか」さまざまな不安が募ったそうです。

そんな二人の心の支えとなったのは、牧師先生、牧師夫人、信仰の仲間の祈りとサポート、具体的な励ましの言葉だったと言います。二人の婚活を、それぞれの教会の方達が共に祈り、励ますことで支えてくれたそうです。そんな中、カズオさんとマミさんが引き合わされ、お見合いすることが決まりました。

カズオさんの事情を説明されたマミさんは、正直戸惑いました。けれど、会わずに断るのも相手に失礼だと思い、会うことにしたそうです。それでも、できた相手から断ってくれたらいいのにといい思いもありました。お見合いまでの数日、なぜか視覚障害者の方の死亡事故のニュースを見ました。その方は後天的な失明だったため歩行も不慣れで事故にあったとのことでした。でも、カズオさんは生まれながらであり、自

立した生活をしている。だから「安心」だと感じたそうです。また、体の不自由な相方を支えながら仲良く手を繋いで歩くお年寄り夫婦の姿を見て「私もそんな夫婦になりたい」という気持ちが芽生えました。それらの思いの変化の後に、お見合いの日を迎えました。カズオさんのほうは、マミさんが相談所に登録して初めてのお見合い相手でした。しかし、この人がダメならもう婚活はやめようと決心していたそうです。

それぞれの思いと事情を抱え、迎えたお見合い当日…マミさんは、カズオさんと一緒にいる心地よさ、彼の前で自然体でいられる自分を感じました。障害よりも彼自身を見ているうちに、彼の目が見えないことを忘れるほど、彼の内面に魅力を感じたのです。「それは、彼が最初に私の内面を見てくれたからかもしれない」とマミさんは言います。出会ったその日に、不安に思っていた全てが吹っ飛びました。

カズオさんは、自分の弱さとブラックな過去をすべてマミさんに打ち明けました。マミさんは話をきちんと聞いて、全てを受け入れてくれ、「過去のこととは過去で、未来を見よう」と言ったそうです。まだ別れたくない思いと、また会えるような気もちを抱えて、お見合いは無事に終わりました。

こうして二人の交際は始まり、出会いから1年ほどで結婚しました。

まもなく結婚して2年を迎えます。いまだに「ラブラブ」という言葉の似合うご夫婦です。マミさんは、「年齢が離れているおかげか喧嘩になったことも、怒られたこともない。いつも感謝の気持ちを伝えてくれるか